

八島湿原「恋人の聖地」に

下諏訪町は5日、同町郊外の八島ヶ原湿原が、NPO法人地域活性化支援センター（静岡市）の「恋人の聖地」に選定されたと発表しました。県内では10カ所目、諏訪地方では4カ所目になる。湿原は全体の形がハート型をしている。町では選定を機に若い男女の来訪に期待する。（今井則幸）

同支援センターは少子化対策と地域活性化への貢献を狙いに2006年からテートスポットの選定を開始。全国の観光地の中から100カ所以上を「恋人の聖地」に選んでいる。

同町では、社会福祉協議会の結婚相談員ら民間委員17人でつくる「出会い・婚活プロジェクト」（森田政彦委員長）の委員が、湿原の「恋人の聖地」化を提案。プロジェクトが支援センターに申請し、3月26日のセンター選定委員会に諮られて、4月1日付で選定された。

八島ヶ原湿原は国定公園。標高1540〜1925m

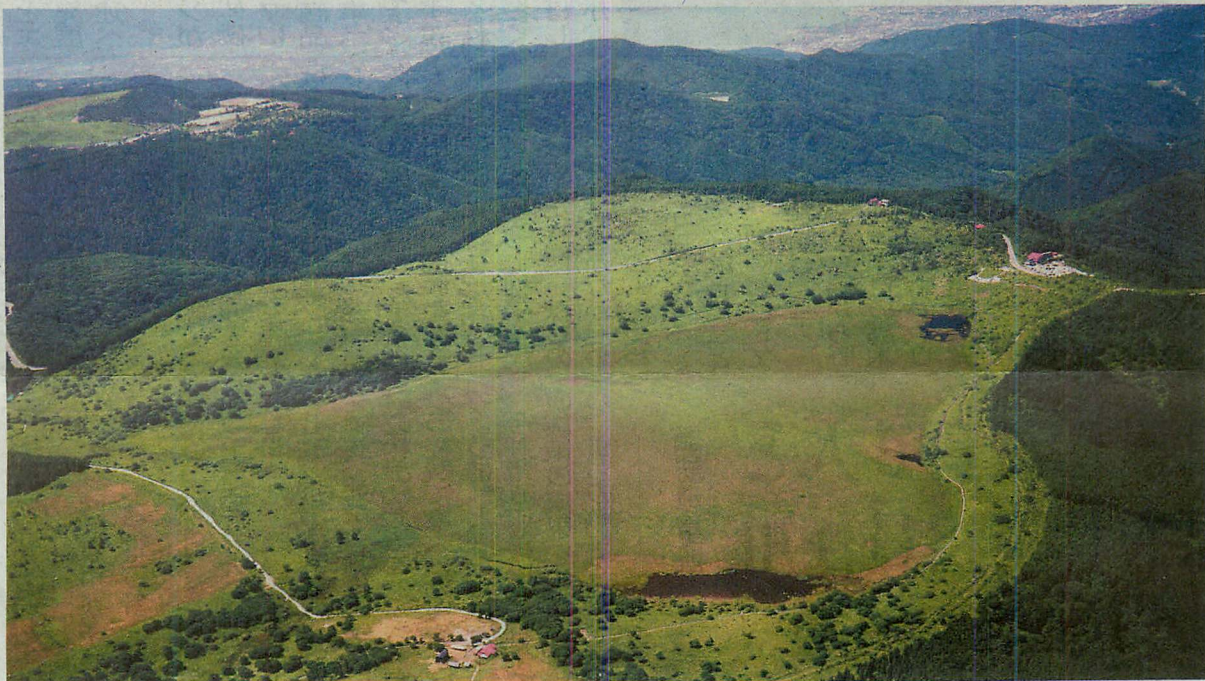
空から見れば「ハート型」

高原にあり、総面積は43・2畝。ハート型をした湿原周囲には遊歩道が整備され、1周90分で散策できる。生息するシュレーゲルアオガエルの鳴き声は環境省の「日本の音風景100選」に入る。

「恋人の聖地」を示す銘板と選定証は5日、町役場に届いた。銘板や案内板の設置場所は、管理する南信森林管理署や環境省と相談して決めていくという。

町によると、同湿原にはトレッキングを楽しむ中高年を中心に年間70〜100万人が訪れている。青木悟町長は「訪れる年齢層が少ない若い人たちも認識、リピーターになってもらえれば」と希望。市街地の下諏訪温泉とバスでつなぐなど、「山」と「里」の観光連携も研究していきたいとしている。

「出会い・婚活プロジェクト」は10年8月に発足。昨年度は男女の出会いの場を提供するイベントを5回開催した。合わせて男性85人、女性84人が参加。7組のカップルが誕生した。



「恋人の聖地」に選定された下諏訪町郊外の「八島ヶ原湿原」。湿原の形はハート型をしている